

地域全体で子どもを迎える姿勢として、『ようこそ〇〇小学校の会』が開催され、保護者や保育園の先生の引率のもと、他校に進学予定の子どもも参加可能とされています。活動内容は普段と変わらないものですが、最後に好

きな遊びをやってみよう』という時間を設け、年長児が自分で遊びを選ぶという主体的な体験を重視しています。保護者理解のギャップに対しては、ドキュメンテーションや写真、事前のお便りなどで活動の背景を丁寧に伝えることが効果的です。

6. 質疑応答より

講演後の質疑応答では、保育園と小学校の生活リズムの違い、保護者の価値観とのギャップ、人員配置の課題、子ども同士のトラブル対応など、現場で直面する具体的な課題が共有されました。特に、子どもが自分の気持ちを整理し、納得できるまで話し合う時間を持つことの重要性が強調されました。短期的な評価ではなく、長期的な視点で子どもの育ちを見守る姿勢が求められています。

なお、時間の都合上、当日質問にお答えできなかった内容についての回答は以下となります。

Q：子どもの育ちを待つことに共感します。こつは何ですか？

⇒A：「子ども自身が興味・関心をもっているとき、その子のもっている最大限の力が発揮される」と言われています。目の前の子どもたちの興味・関心は何か、まずは、一人ひとりの子どもに私たち大人が関心をもつことが大切だと思います。環境さえ整えば子どもは進んで学びます。「やってみたい！」と思えるそんな環境を周りの大人が構成していけるとよいですね。

Q：子供のチャンスを奪わないようにするためのポイントは何ですか？

⇒A：「子どもは、学ぶ意欲と学ぶ力をもった有能な学び手」です。今までの家庭や地域、園や学校での経験や知恵を出し合いながら、自分で考えて取り組む力をもっています。ですから、私たち大人が効率を考えてやることややる方法を決めてしまわずに、子どもたちにきいてみるとよいと思います。「自分たちでやっているんだ！」「ほくがわたしががんばって対象にかかわっていけば、必ずいいことがおこるぞ！」という気持ちをもてることがポイントなのではないでしょうか。

7. 終わりに

講演の締めくくりでは、『困った子ども』ではなく『困っている子ども』と捉える視点の重要性が語られました。子どもと一緒にやりたいことを見つけていく姿勢が、今後の教育において不可欠であることが再確認されました。スタートカリキュラムの実践は、子どもの主体性を尊重し、学びの本質に迫る教育活動であり、教師や保護者、地域の大人たちが『子どもを信じて待つ』姿勢を持つことが求められています。

世界最古のオーケストラ ～雅楽の鑑賞～

7月25日（金）、甲府市のリッチダイヤモンド総合市民会館にて、4教室合同で「雅楽の鑑賞」が行われました。雅楽は、世界最古のオーケストラとも称され、日本の伝統音楽の中でも特に格調が高く、宮廷文化や神事と深く結びついています。

伝統音楽の歴史を学ぶ

演奏前には穴切大神社の秋山忠也氏より、雅楽の歴史的背景や変遷、現代における継承活動について解説がありました。雅楽は奈良時代に仏教の伝来とともに中国や朝鮮半島から伝わり、平安時代には宮廷文化の中心として発展しました。今日でも神社や宮中行事、能や舞楽の伴奏として演奏されるなど、日本文化を象徴する音楽として位置付けられています。

雅楽の演奏と特徴

鑑賞では管弦や舞楽が披露され、楽器や舞の特徴についても解説されました。笛、太鼓、鉦（かね）など独特の音色を持つ楽器が組み合わさることで、神秘的で壮大な響きが生まれます。雅楽の演奏はリズムや音量の変化が緩やかで、聴く者に静かな迫力や荘厳さを感じさせるのが特徴です。参加者の中には、「心が落ち着く」「平安時代の宮廷にいるよう」と感想を述べる生徒もいました。



直接楽器に触れ楽しむ

優雅なひとときと学び

生徒たちは短時間ながら平安の世界に浸り、雅楽の奥深い音色と舞の優雅さを体感しました。雅楽は単なる音楽鑑賞にとどまらず、日本の文化や歴史、礼節を学ぶ貴重な機会でもあります。今回の鑑賞を通じ、音楽の美しさだけでなく、文化や歴史に触れる楽しさも実感することができました。

【ことぶき勸学院】



秋山氏からの丁寧な説明



雅楽の音が響く



音と舞の融合

子どもも地域の方も笑顔が溢れる ～地域在住外部指導者によるクラブ活動指導～

【甲州市立井尻小学校】



一人一人の子どもと向き合う指導

地域講師によるクラブ活動

7月4日（金）、井尻小学校のグラウンドや体育館でのクラブ活動に、地域在住の方々が講師として参加いただきました。今年度は年間6回を予定しています。

暑さの中での工夫と笑顔

当日は午後2時45分から実施され、体育館もグラウンドも厳しい暑さでしたが、指導者の皆さんは子どもたちの体調に気を配り、温かく指導いただき、笑顔にあふれる活動となりました。

太鼓クラブの力強い指導

体育館では「太鼓クラブ」を、篠笛・和太鼓奏者として国内外で活躍する守山芳憲さんに指導いただきました。先生は「うまいじゃん」「いいね～」と全身で褒めながら子どもたちを導き、皆短時間で上達させていました。そして、子どもたちは誇らしげな笑顔を見せていました。

グラウンドでの交流

グラウンドでは「スポーツクラブ」「ゲームクラブ」を、地元のグラウンドゴルフ愛好家の方々が指導しました。子どもたちはチームに分かれ、2名程度の指導者と活動しました。技術指導に加え、地域の方との交流も深まり、褒められた子どもたちは嬉しそうに笑顔を見せました。「初めてだったけど楽しい!」との声も聞かれ、指導者も「子どもたちに元気をもらえた」と笑顔でした。

地域とともに育つ子どもたち

地域の方が子どもたちに技術や知識を教えることで、世代を超えた交流が生まれ、学びの幅が広がりました。子どもたちは地域への愛着や感謝の心を育み、地域の方も子どもたちの成長に喜びを感じています。今後は、より多様な分野の協力を得て、継続的な連携を深めていくことが期待されます。



グラウンドいっぱいの笑い声



一緒にできるって楽しい!

～夏休みに禅の心 大和小児童が座禅と清掃活動～

【甲州市立大和小学校】

夏休みが始まって1週間が経った7月25日（金）、甲州市の大和小学校では、地域の禅寺・栖雲寺（せいうんじ）で座禅体験と学習会が行われました。この活動は平成30年に始まり、今年で7年目を迎えます。夏休み中にもかかわらず、全校児童41名のうち34名が参加し、地域とのつながりを深める貴重な時間となりました。

僧侶の講話と座禅体験

当日は、鎌倉の建長寺の僧侶でもあるお坊さんから講話を受けた後、約20分間の座禅体験を実施。初めて参加する1年生も、上級生と一緒に静かに座り、心を落ち着ける時間を過ごしました。

清掃活動で学ぶ心構え

座禅の後は、歴史あるお寺の清掃活動として、講堂や廊下などを雑巾がけ。「来た時よりもきれいにしよう」のかけ声のもと、児童たちは水拭きで丁寧に掃除を行い、感謝の気持ちを込めて寺院を清めました。



感謝を込めてお堂の清掃



「背中を伸ばしてがんばって座りました」



座禅・清掃の後は、みんなで学習会

成人ろう者との交流 ～デフスポーツアスリートとの交流授業～

【県立ろう学校】

7月7日（月）、ろう学校ホールにて、デフフットサルで活躍する東海林直弘氏による交流授業が行われました。東海林氏は先天性難聴（両耳）で、父の影響で小学校低学年からサッカーを始め、少年団や中学サッカー部を経て、高校からは健常者の社会人フットサルチームに所属。現在も埼玉県のアスリートチームで活動し、17歳の時からデフフットサル日本代表として15年間活躍されています。

児童・生徒との交流活動

当日は中学部7名、高等部3名の計10名が参加しました。講師の自己紹介の後、デフサッカー・フットサルの説明や体験が行われました。パス練習では「どうしたらうまくできるか」を話し合い、自ら考え解決する大切さを学びました。パスからのシュート練習では、パスを出す人の思いやりや、予測して蹴ることの重要性を体感しました。うまくいかなくても拍手で称え合い、挑戦を重ねて成功を目指す姿が印象的でした。



真剣にパス練習に取り組む



興味深い話を真剣に聞く

デフオリンピックへの思い

続いて東京2025デフオリンピック（11/15～26）の説明や、自身の生い立ち、競技への思いについて講話がありました。出場は「多様性と障害理解の促進」に加え、「国際交流と文化交流」という大きな意義があること、また「失敗から学び、自分の選択を正解に導く大切さ」が語られました。

質疑応答で深まる理解

最後には児童・生徒からの質問に講師が丁寧に答えており、相談や疑問に向き合う姿勢が参加者の心に強く残りました。



質問タイムで大いに盛り上がる

伝統をこれからの ～130周年記念式典・総合的な探究の時間～

【県立笛吹高等学校】

～創立130周年記念式典～

6月9日（月）、笛吹高校体育館にて創立130周年記念式典が行われ、生徒・教職員・来賓など約750名が出席しました。生徒会長は「伝統をよりよく進化させ、後輩に伝えていく」と誓いました。式典後には、校歌を作詞・作曲した元レミオロメンの藤巻亮太さんによるトークショーとライブが行われ、「粉雪」や「3月9日」などの代表曲に大きな歓声と感動が広がりました。最後は全員で校歌を斉唱し、節目を祝いました。



厳粛な雰囲気で行われる式典



藤巻さんのライブで盛り上がる

笛吹高校の歩みと学び

同校は1895年設立の「山梨養蚕教習所」を前身とし、2010年に石和高校と山梨園芸高校が統合されて誕生しました。現在は普通科・食品化学科・果樹園芸科・総合学科（環境緑地系列、情報・観光系列、国際文化系列、人間科学系列）を有し、幅広い学びを展開しています。生徒たちは仲間や地域の方々と協力しながら、未来に繋がる学びを深めています。

～総合的な探究の時間～

令和5年度からは文部科学省指定研究開発学校として、教科横断的なSTEAM型教科『笛吹グローバル』を設定。地域社会とのつながりや協働を軸に、探究的な学びを実践しています。「グローバル」とは、「グローバル（国際）」と「ローカル（地域）」を組み合わせる言葉で、国際的な視点で地域を盛り上げる学びを目指すという思いを込めています。

探究コンパ

2年生は7月23日（水）に分野ごとに分かれた活動の発表を行いました。生徒たちは「笛吹グローバル」の授業を通して多くの出会いや対話を重ね、地域の課題を発見。その解決に向けて、自分たちができることを考え、具体的な取り組みを進めています。課題意識を共有する仲間や地域の方々と協力しながら、発表会では計画を発表し、今後の実践の見通しを持つ機会となりました。これから更に詳細な計画や実践が行われていきます。地域との関わりの中で成長する生徒たちの活躍に期待が寄せられています。



興味深い発表ばかり

わくわくが止まらない！サイエンスステップ ～小学生科学教室～

【県立日川高等学校】

7月19日（土）、日川高校にて小学生科学教室「サイエンスステップ」が開催されました。85名の小学生と55名の保護者が参加し、笑顔あふれる有意義な時間となりました。

中学生・卒業生も協力

化学実験はSSHクラスの1・2年次生が自ら考案し、小学生にわかりやすく丁寧に指導しました。さらに近隣の中学生7名やSSH卒業生4名も加わり、8分野16講座が各教室で実施されました。



開会式



高校生が中学生に教える



親子で一緒に学び楽しむ

科学の楽しさを体感

どの講座也大盛況で、小学生だけでなく高校生や保護者も笑顔と驚きに包まれ、科学の楽しさを実感しました。小学生からは「楽しかった！家でもやってみたい」との声が聞かれ、保護者も一緒に楽しんでいました。

教えることから得た学び

高校生からは「小学生に合わせてテンションを上げて頑張ったので、楽しいと言ってもらえて嬉しい」との感想がありました。互いに教え合い、学び合うことで気持ちが通じ合い、笑顔とともに学びを深めることができました。



水晶を探そう



スーパーボールを作ろう



世界の食卓を知ろう



チリメンモンスターを探せ



スピードボールを投げよう



ふわっとボール大作戦

地域とともにある子どもの成長 ～ストリートピアノミニコンサート～

【甲州市生涯学習課】

6月24日（火）、25日（水）の2日間、甲州市役所本庁ロビーにおいて、市内の小学生・中学生がミニコンサートに参加しました。クラシックやポップスなど練習した曲を地域の方々に披露する機会となり、素晴らしい演奏に来庁者も足を止めて聞き入っていました。

ピアノは甲州市役所本庁舎と中央公民館に設置されており、誰でも演奏することができます。



多くの人が演奏に感動

～夏休み！かるた大会～

【主催：甲州市生涯学習市民協議会 共催：甲州市教育委員会】

8月2日（土）、甲州市民文化会館において、小学生34名、年長児10名が市内の名所・旧跡、生活や行事などを詩や絵に織りこんだ「甲州市ふるさとかるた」を使ったかるた大会に参加しました。これはコロナ禍での行事自粛までは新春かるた大会として行われていましたが、令和4年度より夏休みに大会が復活し、本年度も多く参加者を迎えて実施されました。

白熱の対戦

参加した小学生の中には、家庭でも練習を重ね「去年2位だったので、今年は優勝したい」と意気込み試合に臨む姿や、なかなか札が取れずに「悔しい！」と言って涙ぐむ姿も見られ、学年別・年齢別に分かれて白熱した戦いが繰り広げられました。

昔遊び体験で交流

かるた大会終了後には、昔の遊び体験としてけん玉やコマ回し、メンコなどを保護者や協議会の方々と一緒に楽しみました。保護者からは「夏休みにはいろいろな経験をさせたいと思っていたので、こういったイベントが行われる事はありがたい」と、子どもたちの頑張りに笑顔を浮かべていました。

友達同士はもちろん、普段関わることのない大人たちとも一緒に遊び、大きな笑い声が会場中に響いていました。



白熱する大会の様子



昔の遊びの楽しさを体験

小学生夏休み企画

小学生の夏休み中の過ごし方はさまざまです。毎日自由に過ごす、学童保育に通う、不定期でイベントに参加する、学校に通っている時と変わらない生活をする、何かしらの予定を詰めている——など、他にも多様なスタイルがあります。安全で充実した環境を優先して考えた場合、各家庭からは「有意義に過ごして欲しいが、難しいと感じる事も多い」という声も多く聞こえてきました。猛暑となった今年の夏、県内には子育て支援団体等が多くあり、夏休み中の子どもたちの居場所の提供や過ごし方の提案、支援など、さまざまな活動が行われていました。今回はその中から、甲州市の「NPO 法人すてっぷ・あっぷる」による夏休み企画の一部を見学させていただきました。

【NPO 法人すてっぷ・あっぷる】

甲州市役所勝沼支所2階 甲州市地域子育て支援施設内

感想文書き方講座(7月29日)

施設内にあるレクリエーションホールで、高学年と低学年に分かれて開催。高学年は8名が参加し、甲府第一高校の生徒2名がボランティアで協力しました。講師は司書教諭の塚田さん。読んだ本をもとに感想文を進め、子ども同士で意見を伝え合い、「ひとりでするより楽しい!」と笑顔があらわれました。高校生からは「教員を目指しているので良い経験になった」との感想も聞かれました。



丁寧で分かり易い説明



高校生も一緒に考えて進める



高校美術部の生徒さんの技術に驚き、感心する



ポスター教室(8月4日)

甲州市勝沼市民会館で、山梨高校美術部の生徒15名と甲府第一高校の生徒1名が講師となり、小学生22名に指導。構図を考え、下書きから制作を進めました。高校生と小学生は会話を楽しみながら取り組み、「宿題が楽しくできた」「伝える難しさを知った」と互いに成長が見られました。

将棋教室(8月5日)

将棋教室は、全3回の講座が実施されました。この日は小中学生4名と将棋サロンの方4人が参加し、対局や指導を通じて交流を深めました。初めての子も経験者も和やかに楽しむ姿が見られました。



大人との対局を楽しむ中学生



子どもの対局にアドバイスする

英語で遊ぼう!(8月8日)

外国人英語専科教員を講師に、小学生15名が参加。日川高校・甲府第一高校の両校生徒5名がボランティアで協



皆で英語をゆっくり楽しく学ぶ



英語で元気な体操を行う

力しました。歌やゲームで英語を学び、学年を超えて交流。終了時には、小学生が「もう帰っちゃうの?」と高校生と別れを名残惜しむ声もあり、高校生も「貴重な経験だった」と充実した表情で語りました。

地域で子どもを育てる

記録的猛暑の中、活動範囲が制限される子どもたちにとって、地域が提



ボランティアの高校生も学びは多い

供する居場所や学びの機会は大きな意味を持ちました。夏休みの活動を通じ、異なる世代との交流が生まれ、地域の中で子どもを育てる貴重な機会となりました。今後も学校や地域が連携し、子育て支援がさらに充実していく可能性を大に感じることができました。

× × × × × × ×

峡東教育事務所からのお知らせ

× × × × × × ×

『峡地連 人権のための講演会』

日 時 令和7年11月25日(火) 15:00~17:00
会 場 甲州市民文化会館
内 容 子どもたちが安心して育つために
～発達特性や心の傷つきから「戸惑いを感じる」言動を考える～
講 師 山梨県立こころの発達総合支援センター 所長(小児神経科医) 後藤 裕介氏
共 催 甲州市教育委員会

お申込はQR または URL から

<https://forms.office.com/r/KJJDQc0tkJ>

申込み×切
11/11(火)

